

Smiles

新版小学英語教科書のご紹介

特集

- ◆新しい教科書 ONE WORLD Smiles ができました ②
- ◆学習の見通しをもって学べ、「気づき」や関わり合いを大切にした教科書／金森 強 (文教大学教授) ④
- ◆文字指導について—アルファベットから音と文字へ—／泉 恵美子 (京都教育大学教授) ⑥
- ◆Let's Read and Act の活用—物語を扱う意義と活動例—／高橋和子 (明星大学教授) ⑧

授業実践

- 「英語で伝えたい」意欲を高める活動
～ヨーグルトの味を伝えるスピーチコンテストを通して～
川上俊雄 (神崎町立米沢小学校教諭) ⑩

連載

- ◎世界の国から Hello!
第2回：スペイン編／田川敬子 ⑫
- ◎豊かなコミュニケーションを育む
アクティビティ (5) ／
遠藤恵利子 (東北学院大学非常勤講師) ⑭
- ◎心を伝える Classroom English (5) ／
福田 スティーブ利久 (文教大学准教授) ⑮



新しい教科書 ONE WORLD Smiles ができました

いよいよ「教科」となる小学校英語の教科書が完成しました。
以下に、その特色をまとめました。

① 学習の見通しをもって学べます

- ・レッスンの第1見開きで単元目標を示し、単元末の Final Activity でそれを実践できるようにするしくみです。
- ・単元末に「Lesson をふりかえろう」の表を掲載し、自己評価を行えるようにしています。(本冊子 p. 4 参照)

② 豊富なインプットを基盤に、5領域の力を育みます

- ・単元末に至るまでに、聞く活動から始めて読むこと・書くことまで、5つの領域をバランスよく扱いつつ、目標となる表現や語彙の定着を図れるように構成しています。
- ・安心感をもって取り組める読み物教材も用意しています。(本冊子 p. 8 参照)

単元のおおまかな流れ

Let's Watch

↓映像を見て取り組む

Let's Sing /

Let's Say It Together

↓口慣らし

Let's Think

↓考える

Let's Listen

↓聞く

Activity

↓やりとり

Let's Read and Write

↓読む・書く

Final Activity

↓発信活動

Sounds and Letters

↓音声と文字のつながり

Review

Lesson をふりかえろう

Lesson 1 Nice to meet you.

Let's Watch

アヤたちはどんなことを話しているのかな。映像を見てみよう。

Let's Sing

ABC Song

A B C D E F G H I J K L M N
O P Q R S T U V W X Y Z

14

● 5年 p.14 ~ 15, Lesson 1 の第1見開き



各レッスンでコミュニケーションの目的・場面・状況が設定されているため、必然性のあるやり取りが展開でき、児童が楽しく学んでいくことができます。

③ 音声と文字の丁寧な指導ができます

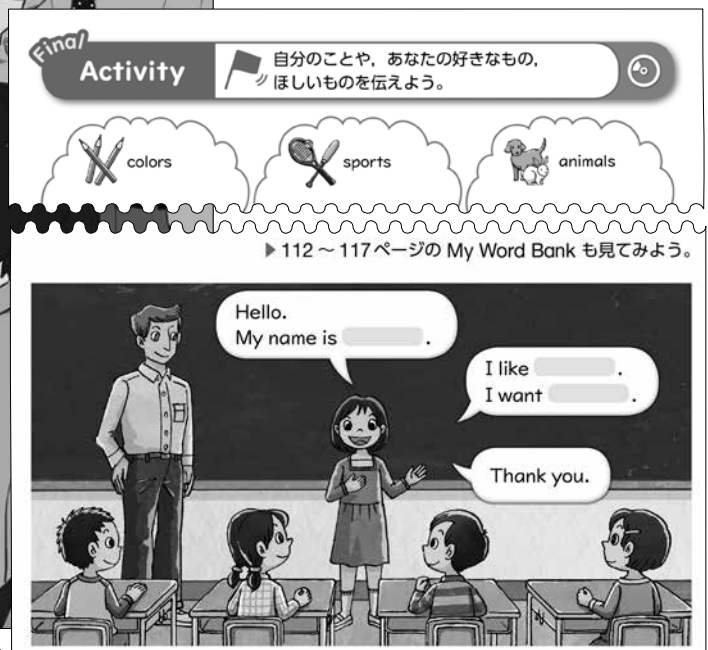
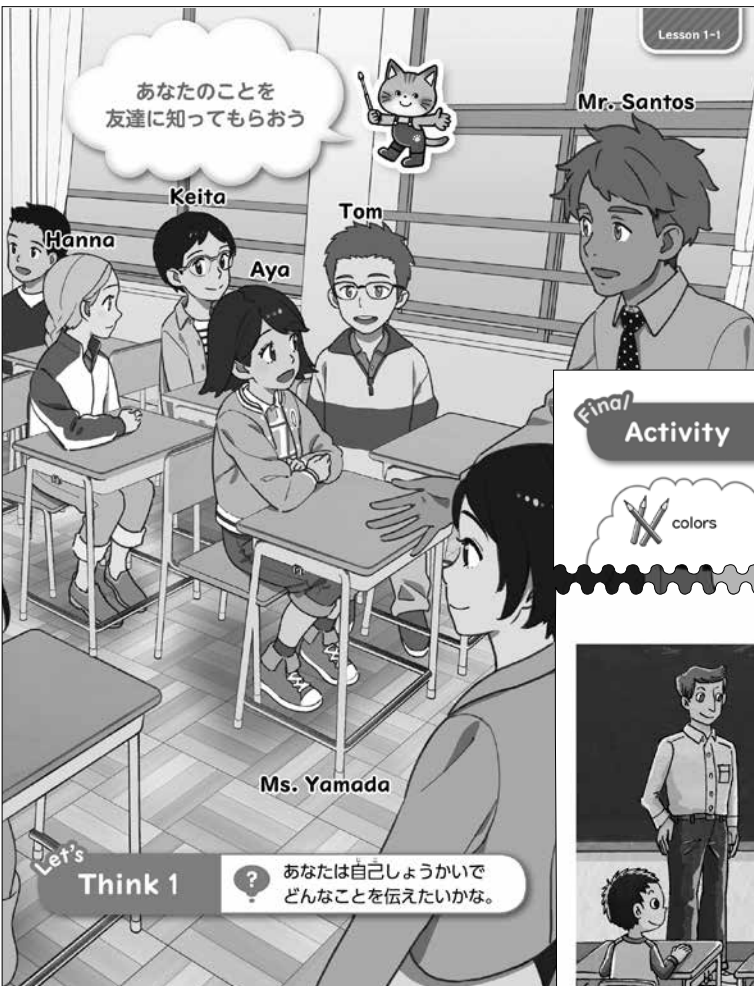
- ・アルファベットの文字の「名称」とその「音」の学習の機会を十分に設定しています。(本冊子 p. 6 参照)
- ・巻頭の Let's Start Together と各ページの脚注、巻末のジングルを連携させ、無理なくアルファベットの音にふれる機会を多く設けました。

④ 「気づき」や関わり合いを大切にしています

- ・Let's Think では、単元末の Final Activity に向けての準備の他に、人の話を聞く態度や反応のしかたについて考えを深めさせます。
- ・多様なペア活動、グループ活動に加えて、グループやクラスで一つの掲示物を完成させる活動が、学級活動、学級経営に役立ちます。

⑤ 楽しく学べる誌面と仕掛けが豊富です

- ・単元末の Final Activity には発表・やり取りを伴う目標活動を設け、楽しみながら積極的に自己表現に取り組めるようにしました。
- ・巻末には、活動シール・絵カード・ワークシートを収録しました。



● 5年 p.20, Lesson 1 の第4見開き抜粋→

教科書の特徴①：学習の見通しをもって学べ、 「気づき」や関わり合いを大切にした教科書

かなもり つよし

金森 強 文教大学 教育学部 教授



第四期中教審外国語専門部会
専門委員、
中学英語教科書『ONE WORLD』
(教育出版) 著者。
日本児童英語教育学会理事、
実践英語音声学会理事ほか。
小学生への指導経験を踏まえ、
教材開発と全国各地での指導に
あたる。著書に『主体的な学び
をめざす小学校英語教育』(教育
出版), 『小学校英語科教育
法』(成美堂) ほか。

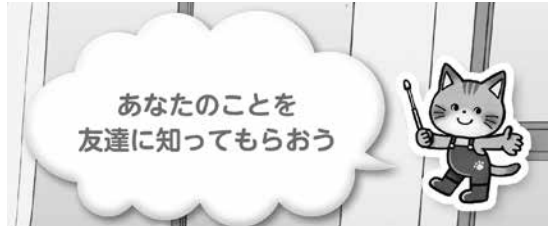
主体的な学びを通して「深い学び」へ導くために必要なことは何でしょうか。教室における指導で教師が意識すべきことは、学習者が自ら「気づく」手立てを講じ、学んだことを既習の他の事項と「関連づけ」、知のネットワークの中に「体系化」することを助けてあげることです。本書は、そのような授業にふさわしい外国語科教科書の作成を目指しました。

学びの見通しと目標を渡すことから

言語活動を行う際、児童にとって必然的な活動にするためには、まず「誰とコミュニケーションを持つ」のか、次に「何のためにコミュニケーションを行うのか」、さらに、意図することを「どのように成し遂げたいか」を意識させることが大切になります。その過程を通して、児童は相手に配慮しながら、必要となる言語材料を選択し、自分の思いや考えをどのように伝えたいのかを考えることで、コミュニケーションや学びの見通しをもつことができるからです。

何のために英語を発しているのかも理解できないまま、覚えたフレーズをやみくもに言い合うだけの活動では、英語を学ぶことへの興味さえも失いかねません。単元の最初の活動で、目標を示し、学びの見通しを渡

すことから始めることがポイントです。

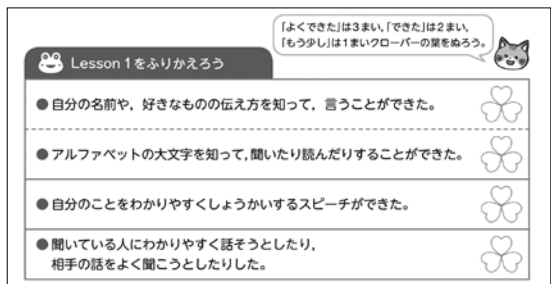


● 5年 p.15, の Lesson 1 より。単元冒頭で目標を明示。

ふりかえり活動で深い学びへ導く

活動や単元の最後に何を身につけることができたかを具体的に省察する手立てとして、「ふりかえり表」(下)の使用は有効です。

ふりかえり表を効果的に用いることで、その時間や単元で何が大切だったのか、自分はどれくらいできたのか、友達でよくできていた人は誰かなどを考え、次の授業で自分が何に注意しながら行うべきか、学びの道しるべになるからです。



● 5年 p.23, Lesson 1 の「ふりかえり表」。達成度に応じてクローバーの葉を塗るしくみ。

ふりかえり表の言葉には、相手を意識したコミュニケーションの大切さを含めるように努めています。子どもたちが、単元やその時間のめあてを思い出し考える機会を繰り返しもつことが、豊かなコミュニケーションに必要なことへの気づきを引き出すと考えたからです。中間ふりかえりでは評価項目のうち2枚の葉しか塗れていなかったのが、最後には全部塗られるようになってい

ていたとすれば、学習活動を通じた変容が生まれたこととなります。

学習・コミュニケーションの見通しをもち、身につけるべき学力を意識しながら児童が言語活動に取り組むことができれば、必然性のある学び・コミュニケーションにつながるはずです。知識・技能面だけで終わらせることなく、主体的に学習に取り組む姿勢や思考・判断・表現に関わる文言を含めたふりかえり表の使用は、形成的な評価のツールとして役立ち、また、指導と評価の一体化を意識しながら、教師が授業を進めることを可能にするでしょう。

伝え合う・響き合うやり取りが重要

思考・判断・表現の能力を育むためには、場面や状況、目的に応じていかに表現するかを意識させることが大切になります。また、自分の思いや願い、考えがあってこそ自己表現活動は活発になるものです。本当の自己表現であるからこそ、伝え合う・響き合うやり取りにすることができるのです。

伝えたいという強い思いが生まれると、効果的に伝えるためにはどのようなジェスチャーや表情、声の調子、間(ま)、話すスピードを選ぶかを意識するようになります。そこで、「伝えたい」と思える活動や、児童自らが感じ・考え、判断し、表現できるような場面・状況設定を心がけました。

表現する楽しさを満喫できるように、発表用のアイテムの提案も行っています。アイテムを効果的に利用することで、聴き手にも、しっかりと耳を傾けて聴く姿勢が育ったり、興味をもって友達の作品を読むことも生まれたりすると考えたからです。

6年 Lesson 9 の My Book (右上) がその一例です。My Book を活用することで、音声で慣れ親しんだ英語を用いて、自分のことを書いて伝える楽しさが増します。また、グループやペア活動のプレゼンテーションにおける発表用アイテムとして利用することも可能です。完成した My Book は、廊下や English

Room に展示することで、下級生や他の先生方にも見てもらえます。誰かに読んでもらえるからこそ、工夫して表現したり丁寧に書こうとしたりするものですし、下級生にとっては、上級生の英語力だけでなく、授業内容を知ることでもでき、次年度以降の英語授業へのモチベーションにもなるはずです。



- 6年 p.101, Lesson 9 の「My Book」。2年間のまとめとして、好きなものなどを1ページに1文ずつ書き、本の形にまとめる。

関わりが生まれる豊かな言語活動を

小学校における英語授業を通して育まれる力は、英語の知識・技能面だけではありません。授業を通して関わりが生まれることで、児童がお互いのことを理解したり受け止め合ったりする機会となり、他者理解や自己表現を通じた自己理解、自己有用感の育成、さらには、言葉やコミュニケーションの取り方の変容にもつながっていきます。このことは、特に大切にして取り組んだ視点です。ONE WORLD Smiles で、小学校における外国語科ならではの全人教育、また、言葉の教育としての外国語科の授業を進めていただけることを願っています。

教科書の特徴②：文字指導について —アルファベットから音と文字へ—

泉 恵美子 京都教育大学 教育学部 教授



中学校英語教科書『ONE WORLD』(教育出版) 著者。
日本児童英語教育学会副会長、
関西英語教育学会副会長、
全国英語教育学会理事ほか。
教員養成・教員研修に広く携わる。
編著書に『続 小学校英語活動アイデアバンク』『Q&A 小学英語指導法事典—教師の質問112に答える』(以上、教育出版)、
『新編 小学校英語教育法入門』(研究社)、
『英語スピーキング指導ハンドブック』(大修館) ほか。

「読むこと」「書くこと」の目標

新学習指導要領における「読むこと」の目標は、活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音したり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにしたりすることです。また、活動としては、文字を見て、どの文字か、大文字・小文字を識別したり、文字を見て読み方を適切に発音したり、日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、必要とする情報を得たり、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を、絵本などの中から識別することなどが挙げられています。

一方、「書くこと」の目標は、大文字・小文字を活字体で書いたり、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり、自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に書くことができるようにしたりすることです。その活動として、文字の読み方が発音されるのを聞いて、大文字・小文字を書いたり、相手に伝えるなどの目的を持って、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写したり、語と語の区切りに注意して基本的な表現を書き写したり、名前や年齢・趣味・好き嫌いなど、自分に関する簡単な事柄について、例の中から言葉を選んで書いたりすることなどが挙げられています。

「知識及び技能」の音声については、語と語の連結による音の変化、語や句、文における基本的な強勢、文における基本的なイントネーション、活字体の大文字・小文字、などの事項が挙げられています。本書は、そのような目標、活動、事項を取り上げ、丁寧な段階を踏んだ文字指導が可能な誌面構成としました。

アルファベットを認識する活動

ここでは本書における文字指導の特徴を挙げてみます。まず、5年生では、アルファベットの読み方から始まり、大文字・小文字を認識させたり書かせたりします。その後、小文字と音素の関係に気づかせ、発音を聞いて文字と一致させたり、音素の違いに気づかせたり、音を聞いて文字を書かせたりしたのち、単語から英文の読み・書きへとつなげています。例えば、5年生 Lesson 1～3の単元末に配置した The Alphabet のページでは、アルファベットを認識したり、大文字と小文字をつなげたり、文字を書いたりといった活動が設定されています。図1は、アルファベットの音声を聞いて文字を線でつなぎ、絵を完成させる活動で、児童はアルファベットの小文字の読み方を楽しく学習することができます。




図1 5年 p.32, Lesson 2 The Alphabet より

音と文字の関係に気づかせる

5年生 Lesson 3以降は、各レッスン末に Sounds and Letters のページがあります。最初は、

児童になじみのある単語を取り上げ、発音を聞き、英語とカタカナ語の違いに気づかせます。次に、単語の最初の音(初頭音)に気づかせ、音素と文字をつなげたり、例えば b の音 (bed, banana など) と p の音 (pen, pink など) の違いに気づかせたりする活動、音を聞いて文字が分かる活動へと続きます。そして最後には習った音が入った文を聞いて、英語特有のリズムやイントネーションにも気をつけて楽しく発音させながら、音と文字の関係が習得できるようになっています(例: Pigs and bears play baseball.)。

1 英語とカタカナ語のちがいに気をつけて聞こう。




① bed ② baseball ③ birthday
④ pizza ⑤ pineapple ⑥ potato

2 下線の文字の発音をよく聞いて、その文字を書き写そう。

① bed banana book b _____
② pen pink panda p _____

3 bかpのどちらで始まる単語か、聞いて○をつけよう。



① ② ③ ④

4 音声を聞いて、言ってみよう。




図2 5年 p.42, Lesson 3 Sounds and Letters より

徐々に読みの力を育てる

また、各単元末の Review では、イラストと合う既出の表現を選んだり、児童に身近で簡単な単語を探すワードサーチなどの楽しい活動を通して、徐々に読みの力を育てます。

2 イラストと合うものを選んで○で囲もう。



① ② ③

- ride a unicycle
- play badminton
- run fast
- play the recorder
- play volleyball
- jump high

図3 5年 p.65, Lesson 5 Review より

2 下の単語を見つけて、○で囲もう。



hamburger pizza salad

a	h	h	a	m	b	u	r	g	e	r	e	r	h
p	p	i	z	z	a	s	a	s	a	l	a	d	a

図4 5年 p.89, Lesson 7 Review より

6年生の Sounds and Letters では、子音・母音・二重音字 (ch, sh, th など) の認識をし、文を声に出して読みます。Review には音声を聞いて初頭音を書く活動も含まれており、終盤の単元では語順を意識して語句を選び、文を作る活動へと発展します。(図7では、示された名詞と動詞句に can を加えて文を作る。)

4 音声を聞いて、言ってみよう。

I eat fresh fish and chocolate on the beach.



図5 6年 p.80, Lesson 7 Sounds and Letters より

1 音声を聞いて、あてはまる文字を書こう。



① ② ③

_____ basketball _____ tennis _____ soccer

図6 6年 p.73, Lesson 6 Review より

1 下の言葉を2つのグループにわけて、絵を○か△で囲もう。



run fast Tom play the drums draw well
I you Elly sing well

図7 6年 p.103, Lesson 9 Review より

本書の文字指導では、焦点を当てたい各音素について、既習語彙を中心に丁寧に導入します。その音素をおよそ2回含む文で初頭音のみに着目させるところから始め、次第に初頭音以外も扱って、児童が音素を結びつけて無理なく単語を読めるようになることを目指します。さらに、文の強勢やイントネーションに気をつけて聞いたり言ったりさせるなど(例: I'd like salad, steak, and pudding.) 文字と音声に関わるさまざまな活動を通して、児童に楽しく文字に親しませ、読みたい・書きたいといった気持ちを大切に育てることができます。

教科書の特徴③: Let's Read and Act の活用 —物語を扱う意義と活動例—

高橋和子 めいせい 明星大学 教育学部 教授



西南学院大学文学部助教授、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻(社会人特別選抜)を経て現職。博士(学術)。専門は英語教育(教材研究・指導法研究)。現職教員を対象にした研修講師や大学院における指導も行っている。単著に『日本の英語教育における文学教材の可能性』(ひつじ書房)、共著に『小学校教員を目指す人のための外国語(英語)教育の基礎』(明星大学出版部)ほか。

「読むこと」と Let's Read and Act

2020年度から完全実施される学習指導要領では、中学年で慣れ親しんだ外国語の音声や基本表現を土台にして、高学年から本格的に「読むこと」が始まります。中学年では「読むこと」の指導を直接行いませんので、教える側の先生にとっても、教わる側の児童にとっても、「読むこと」への不安もあるでしょう。

ONE WORLD Smiles には、Let's Read and Act というコーナーがあります。5年生用の教科書には *A Good Idea!* (原作・奈街三郎「はしの上のおおかみ」)、6年生用には *A Great Idea!* (原作・小野瀬稔「およげないりすさん」) と *The Letter* (原作・Arnold Lobel, *The Letter*, 国語教材名「お手紙」) が、それぞれ掲載されています。これらの原作は各社の国語や道徳の教科書に採用されてきており、教員にも児童にもおなじみの題材かもしれません。今回、これらを英語教材化した理由の1つは、児童に「この話、読んだことがある!」と感じてもらいたかったからです。書かれた文字が日本語から英語に変わって難しそうに見えても、どのような内容が書かれているかをあらかじめ知っていれば、「お手紙」のがまくんとかえるくんの顔を見て、大きな安心感が生まれるのではないのでしょうか。

音声で慣れ親しんだ語句や表現を物語を通して「読む」

学習指導要領で示された「読むこと」の目標は、「ア活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする」こと、「イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする」ことに大別されます。Let's Read and Act は、主に後者の目標のために用意された教材です。

イの目標は、音声を通して十分に慣れ親しんだ語句や表現を、文字と結びつけながら理解できることを目指します。その際、文字情報だけではなく、さし絵などの視覚情報も手がかりにして、語句や表現の意味を推測しながら「読むこと」がこの目標に含まれます。

Let's Read and Act に収められた *A Good Idea!* と *A Great Idea!* は、8コマもしくは4コマ漫画形式でイラストと文字が一体化しています。*The Letter* にも意味理解を助けるさし絵が十分に用意されており、



● Let's Read and Act の各誌面

絵本を読むように楽しみながら話の流れがわかるように構成されています。さらに、ここで使用されている単語や表現は、5・6年生になる前に音声を通して慣れ親しんだ単語・表現が多く使用されていますので、音声と文字を結びつけやすい点も特色です。

物語教材に備わる、大切な文脈

それでは、Let's Read and Actにある教材を、教室の中で実際どのように活用すればよいのでしょうか。まずは本教材を扱う上で、配慮していただきたい点を考えます。

Let's Read and Actで扱っている題材は物語です。物語には、多くの場合一定の筋があります。登場人物・動物たちが何らかの事件に直面し、これを解決しようとする姿を追いながら、意味ある文脈が形成されていきます。そして最後に、事件が解決してめでたく話が終わる場合も、解決が十分に図られずに結末を迎える場合もあります。したがって、物語教材の特色を踏まえた授業を行う際は、文脈を極力大切に扱うことが必要になります。英語の授業で、意味ある文脈を設定することは実はとても難しいことです。たとえ「目の前に川があります」と言っても、川が突然出現することはなく、どうしても不自然さが伴います。一方、物語を用いれば、前後の豊かな文脈から、「目の前にある川」をすぐに出現させることができます。

物語の文脈を大切に扱うためには、さし絵を見せながら全体を通して読み聞かせたり、視聴覚教材を使用する場合は、あまり細かく区切らずに全体を視聴させたりする配慮が必要です。Let's Read and Actで扱われている題材はどれも比較的短く、しかもなじみ深い話である可能性が高いため、子どもたちを飽きさせずに、物語全体の流れを理解させやすいと思います。

さまざまな活動例

以下では、Let's Read and Actを使った活動例をいくつか紹介します。子どもたちの実態に応じて、日々の授業に取り入れてくだされば幸いです。

● 内容把握のための活動

- 物語のさし絵を通して見せて、どのような話なのかを推測させる
- 視聴覚教材を使って全体を視聴させて、全体の流れを把握させる。繰り返し聞こえてくる音声に注意を向けさせる
- さし絵を見せながら、全体を読み聞かせる。その際、登場する動物たちの表情をよく見て、どのような気持ちでいるかを考えさせる
- さし絵を絵カードにして、絵を話の順番通りに並べ替えさせる
- 登場する動物のイラストと、セリフをバラバラにしたワークシートを作り、誰が何を言ったのかを線で結ぶ

● 単語・表現に関連した活動

- 登場する動物名を、絵カードを用いながら発音する
- 繰り返し出てくる単語・表現を、絵カードを使って何度も聞かせたり、みんなで発音したりする
- 絵カードにしにくい表現（“Go back.”, “Don't worry.” など）は、ジェスチャーを用いたり、表情・声色を工夫したりしながら発音する
- 既習単語・表現、繰り返し用いられる表現を、指でたどりながら読む
- アルファベット・カードを並べ替えて、話に出てくる既習単語を作る

● その他にも…

- 5W1Hに関する点を中心に、絵を指しながら子どもたちに質問をしてやり取りを行う（“What animal is this?” など）
- カギとなるセリフを選び出し、何度も声に出して読む
- 物語の続きを考える

自分を物語る力、誰かの物語を受けとめる力

物語は、本の中だけに留まる世界ではありません。私たちが日常生活で経験したことを誰かに伝えたいと思うとき、知らず知らずのうちに物語の形式を取り入れて語っています。子どもたちが将来、自分自身を語る力を身につけるためにも、そして相手の物語を大切に受けとめるためにも、Let's Read and Actの物語教材を十分に活用していただきたいと思います。



「英語で伝えたい」意欲を高める活動 ～ヨーグルトの味を伝えるスピーチコンテストを通して～

■川上俊雄 (千葉県神崎町立米沢小学校 教諭)

はじめに

千葉県で最も小さい町である神崎町は、教育にとても熱心な町です。英語に関しては、敬愛大学や文芸学院大学と提携して、国際学部の大学生の受け入れや外国語学部の大学教授による指導（低学年）が行われています。

また、町独自で1～4年生の英語・外国語活動のためのALTを採用しています。来る2020年の5・6年生への外国語科実施に向けて、2018年度からは英語科の免許をもつJTEが採用されているほか、2名のALTが担任と一緒に授業を行っています。授業を進めるにあたり、町内の2つの小学校（米沢小と神崎小）で日課表や指導内容の共通理解をはかり、5・6年生は*We Can!*を70時間、3・4年生は*Let's Try!*を35時間できるように進めています。私を含め、高学年を担当することが多い先生には、「教科としての英語」に戦々恐々としながら移行期間の授業を進めている方も多いことでしょう。しかし、我が町では、教育委員会から配置されたJTEの存在によって、その不安は少なからず取り除くことができましたと感じています。

本校の実態と実践の背景

本校は、神崎町にある2つの小学校のうちのひとつで、全校で児童数44名です。そして、私が担任する6年生は、たったの7名です。

今年度、校内研究のテーマを「教師の指導力を付ける研修～ALTとともに作っていく外国語・外国語活動を通して～」とし、取り組んできました。小規模校で、しかも研究指定を受けているわけでもなく、英語教育に詳しい先生はいません。外国語活動の指導案を書いたことがない先生がほとんどの中、*We Can!*や*Let's Try!*の指導編を読みながら、暗中模索の授業研究になりました。幸いなことに、私の妻がJTEとなったので、英語に対するアドバイス（例えば「児童に見せ

るフォントは、教科書の小文字に一番近いもの（*Comic Sans MS*）がよい」など）をもらいながら、*We Can!* 2のUnit 7「My Best Memory」の研究授業を行いました。

実は、私は錦鯉のアマチュアの協会「全日本愛鱗会」の千葉県支部長も務めています。そのような経緯もあって、本校では児童が一人一匹ずつ錦鯉を飼育しており、その活動の様子は米沢小学校の特色ある教育として、地方紙やテレビに取り上げられたこともあります。

錦鯉と英語に何か関係があると想像できるでしょうか。新潟を発祥の地とする錦鯉は、今では毎年生産されるうちの90%を海外に輸出するほど、海外で人気が高く、全日本愛鱗会の会員の半数以上が海外の方なのです。そのうちのひとりである友人に、ダノン・ジャパン株式会社で研究開発部長を務めているベトナム人のドゥック・グエンさんがいます。彼は日本の食文化の理解に努め、あんぼ柿とほうじ茶、そして抹茶をブレンドしたヨーグルトの研究開発に携わりました。「和セレクション」と命名されたその商品は、2018年11月（研究授業の1カ月前）に日本限定で発売されました。

英語で伝える必然性のある活動を設定

We Can! 2の単元目標の3番目に「他者に配慮しながら、～について伝え合おうとする」が毎回あります。今回はこの目標を発展的に取り組んだ実践を行いました。

私のねらいは、「日本語が得意でないドゥックさんに、食べた感想を英語で伝えたら、きっと喜んでくれるだろう」ということでした。そこで、Unit 7のスピーチの発展的活動として、「『和セレクション』を食べた感想をドゥックさんに伝えよう」と題してスピーチコンテストを計画し、実施しました。優勝者にはドゥックさんから賞が贈られることも子供達に伝えました。子供達が、食べた感想をドゥックさんにどうしても英語で伝え

たいと意欲的に取り組んだことは、言うまでもありません。

取り組みの工夫と課題

「工夫」

- ① 給食の時間に「和セレクション」をみんなで食べた後、すぐに、日本語で感想を具体的に短く書いてもらいました。
- ② 日本語のニュアンスになるべく近くなるように、担任が簡単な単語を使って英訳しました。
- ③ 日本語と英語を併記した紙を用意しました。
- ④ ③の紙と同時に発音のモデルとなる音声を、ALTに協力してもらい、動画で撮りました。(児童7人分)

Ranami Miura

ヨーグルトのとろとろのかんしょく(食感)と干し柿の果肉があわさっていい感じのかんしょく(食感)をうみだして、ほんのりほうじ茶の味がしています。

Soft yogurt and Ampogaki make a good combination, and I like its taste with a little Hojicha flavor. It was very good.

● 食べた感想の英訳例

- ⑤ ④の動画を学校の児童用のサーバーに保存し、個々が自由にアクセスして、イヤホンやヘッドホンを用いて再生し、練習できるようにしました。



● スピーチ練習の様子とスピーチ動画

- ⑥ 担任は練習の様子を見ながら、発音のアドバイスをしました。
- ⑦ 英文を暗記した児童には、表情の工夫やジェスチャーをつけるようにアドバイスしました。

- ⑧ スピーチの録画は本人が納得するまで、何度も撮り直しをしました。
- ⑨ ドウックさんにスピーチ動画を送り、結果発表の動画をオフィスで撮影してくれるように依頼し、オンライン感を出しました。
- ⑩ 研究授業の最後に、個々のスピーチとドウックさんからの結果発表の動画を紹介し、取り組みの成果を公開しました。



● ドウックさんからの結果発表の動画

「課題」

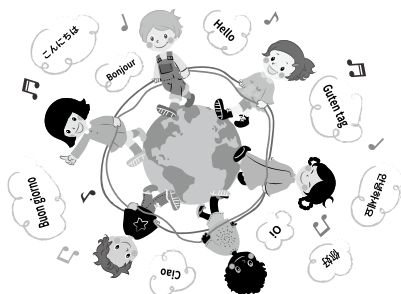
食べた感想を日本語のニュアンスに近くなるように英訳するのは容易ではありませんでした。また、*We Can! 2* で使われている単語以外の発音にも慣れる練習が必要だと感じました。

おわりに

「英語を身につけたければ、留学するのが一番だ」とよく耳にします。錦鯉の生産者の跡取りは、みんな留学をします。それは生活する上で「英語でどうしても伝えたい」という必要性があるからだと思います。今回、子供達は「ドウックさんに気持ちが伝わるよう、食べた感想を英語で上手に伝えたい」という熱意に駆られたのだと思います。子供達の思いはドウックさんに伝わり、優勝者に36個と、食べた感想をがんばって伝えた子供達全員に、サプライズでそれぞれ18個も「和セレクション」が贈られました。



● 賞品を受け取り、喜ぶ児童たち



世界の国から Hello!



第2回 スペイン編 田川敬子

海外に住む方が、現地の小学校生活を中心に暮らしぶりをレポート。第2回はスペインのバレンシア州に住む6年生の男子の登場です。



スペイン語と現地語が公用語のバレンシア州

スペインは日本の国土のおよそ1.3倍で、約4700万人が住んでおり、その10%が外国人です。国民の多くが昔ながらのカトリック教徒で、祝日やお祭り、生活習慣にもそれが反映されています。スペイン語はスペインを含む世界21カ国の公用語で、母語話者人口の数は第2位と広く普及している言語です。17の自治州のうち6つの州は独自の言語を有し、スペイン語と現地語が公用語に定められています。

今回、学校生活を紹介してくれる6年生のガブリエル・バルド・ラドズィウナイテくんが住むバレンシア州では、スペイン語とバレンシア語が公用語。特にガブリエルくんの町ではバレンシア語が主流です。



現地語教育のため語学重視のカリキュラム

スペインの義務教育は小学校6年と中学校4年の計10年間。ほぼ全員が3年間幼稚園に通い、そこで読み書きや簡単な計算、英語の勉強がスタートします。学校は公立と私立のほかに、公的助成金をもらっている半公立校が存在し、ガブリエルくんが通っているのはカトリック系の半公立校。幼稚園から高校までのエスカレーター式です。

ガブリエルくんの学校では、1学年は3クラスで、そのうち2クラスがスペイン語コース、もう1クラスはバレンシア語コースです。ガブリエルくんはスペイン語コース在籍、1クラスは25人です。

小学校の履修科目は、国語（スペイン語）、算数、バレンシア語、英語、理科、社会、体育、音楽、図工、

宗教の10科目。カトリック校なので宗教は必修です。6年生では、週25時間の授業のうち国語4時間、バレンシア語4時間、英語3時間と語学を重視したカリキュラム。ガブリエルくんの好きな科目は英語と体育で、「英語はちょっと話せるよ」とのこと。バレンシア州では2つの公用語の「完全バイリンガル教育」を推進しているため、スペイン語コースでも理科と社会の授業はバレンシア語で行われます。バレンシア語は州内でしか通じないとはいえ公務員になるには欠かせない言語で、何よりも昔からこの土地で暮らす人々には大切な母語なのです。



毎日5時間授業、3時間近い昼休み

ガブリエルくんの小学校は朝9時に始業。3時間授業を受けた後は2時間50分もの長い昼休みがあります。ガブリエルくんが年少の頃は、学校で給食を食べていましたが、「あまりおいしくない」そうで、現在は毎日家に帰って中学生のお姉さんと一緒に昼食をとります。その後、午後3時に学校に戻って、2時間の授業を受け、5時に下校します。



iHola!(Hello!) ほくの名前はガブリエル・バルド・ラドズィウナイテ。スポーツが大好きな6年生。お父さんはスペイン人、お母さんはリトアニア人だよ。

一方で、このような学校は減ってきており、朝9時から午後2時まで、昼食なしで5時間授業をする学校が一般的になりつつあります。



教科書の代わりにタブレットを使用

ガブリエルくんの学校では、6年生から教科書の代わりにキーボード付きのタブレットを使います。校内のネットワークに接続すると、各科目の教科書がタブレットで見られるシステムです。



●教科書代わりに使うタブレット。勉強しながらコンピュータの知識も身につく。

子どもたちは毎日制服を着て、このタブレットと科目ごとのノート、連絡帳と筆箱、そして2時間めと3時間めの間の中休みに食べる、「ボカディージョ」と呼ばれるスペイン版バゲットサンドをリュックに入れて登校します。スペインでは昼食時間が遅いので、朝食と昼食の間に軽食を食べる習慣があるのです。



●学校に持参するタブレット(左上)、連絡帳(中央)、筆箱(右)、その下に科目ごとのノート。



勉強にスポーツに多忙な毎日

スポーツが好きなガブリエルくんは、週に2日、休みに学校のバレーボールクラブに参加しています。クラブのある日は、3時間の授業の後に1時間のクラブ活動があり、それから帰宅して昼食を食べ、学校に戻ります。クラブ活動はほかにサッカーやコーラス、チェス、バレエ、演劇などがあります。ガブリエルくんは町のバスケットボールチームに所属しているので、週3回ほど放課後に練習に通い、たいてい土日のどちらかに試合に出場します。



●放課後は親友と一緒にバスケットボールの練習へ。スペインはサッカーが有名だが、バスケットも人気。

スペインの学校は宿題が多く、ガブリエルくんも帰宅後、毎日1時間近くは勉強しないといけません。「プレイステーション」で遊ぶことが大好きで、あまった時間はゲームに夢中。「Pokémon GO」にハマっていた時期もあるそうです。日本についてはアニメや緑色の「キットカット」(抹茶味のこど)が好きとのこと。アニメは、スペインの人々が日本語に興味をもつきっかけにもなっているようです。



宿題のない2カ月半の夏休み

スペインの学校は9月上旬に新学期が始まります。クリスマスまでが1学期、年明けからイースター休暇までが2学期、そしてその後6月下旬までが3学期。つまり、夏休みは長く、約2カ月半に及びます。休みの間は、町のスポーツ施設や英語学校、音楽教室などさまざまな機関がサマースクールを開くので、多くの子どもは1日の半分をそこで過ごします。ガブリエルくんも、毎夏7月から8月半ばまではスポーツセンターのサマースクールに参加し、水泳やサッカー、テニスなどを楽しんでいます。

スペインでは、海や山に別荘やアパートを持つ家庭も多く、観光旅行よりも自然の中でのんびり過ごすことを好みます。夏休みの宿題もないので子どもたちはのびのびしていますが、長すぎる休みに新学期を待ち遠しく思う親も少なくありません。

田川敬子(たがわけいこ)

東京都出身。1996年に訪れたスペインにひとめぼれ。2002年の春に夢が叶い、バレンシアの日系企業に転職。現在はオリーブオイル・ソムリエや通訳、スペイン情報を発信するライターとして活動中。日西ハーフ(ダブル)の中学生男児の母。

<https://www.facebook.com/spainoliveoil/>



連載

豊かなコミュニケーションを育むアクティビティ
学級作りにもつながるおすすめの活動を紹介しします

【第5回】

《スティックトークで、どんどんつながろう!》

■遠藤恵利子 (東北学院大学非常勤講師・元 仙台市立 向山小学校教諭)
むかいやま

スティックトークで、言葉をつなぐ

今回ご紹介する活動も、十分なインプットを行ってからの、アウトプットを意識したドリル活動として、どの学年のどの単元でも行うことができます。スティック(ボタン代わりの棒)をマイクのように持って話し、隣の児童にスティックを渡し、話をどんどんつなげていく活動です。つながる楽しさや達成感を感じつつ、目標とする表現を練習することができます。

スティックトーク1 [基本バージョン]

▼進め方

- 単語でもセンテンスでも行うことができます。
- “I like...”の表現を使った場合の例を紹介します。
- ①3～4人組みのグループを作り、円形に座ります。
- ②順番を決め、最初の児童Aが自分のことを話します。マイクに見立てたスティックを持って話し、次の児童に渡していきます。1人目のAは、“I like music.”のように1文だけ言います。2人目のBは、“I like music. I like science.”のように、2文を言います。3人目のCは、3文を言います。

※このように、言う単語や文をどんどん増やしていく、なるべくスムーズにつながっていきます。なかなか次の発話が出てこない場合は、そこで1ゲーム目を終了します。2ゲーム目はスタートの順番を変えるなどして始めます。

※学年の学習内容に応じていろいろな表現を用いることができます。I can.... / I want to go to.... / I want to be.... 等々、多様なパターンのドリル活動になります。

スティックトーク2 [応用バージョン]

▼進め方

- “I want to go to”の表現を使った例です。
- ①3～4人組みのグループを作り、円形に座ります。
- ②最初の児童Aが自分のことを話します。“I want to go to Canada. (Bに向かって) How about you?”
- ③児童Bにスティックを渡します。BはAの言ったことを受けとめて言い返してあげるリアクションをして、自分のことを話します。“Oh, you want to go to Canada. I want to go to China. (Cに向かって)How about you?”
- ④今度は児童Cです。“Oh, you want to go to China. I want to go to Italy. (Dに向かって) How about you?”のように続けます。

※使う表現のバリエーションを変えられます。



イラスト・田村敬子

「スティックトーク」のポイント

- ①インプットが不十分な段階では安易に行わない。
- ②慣れ親しんだ既習事項を使って行うと安心して取り組むことができます。
- ③クリアボイスで最後まで相手に伝えます。話し手と聞き手が顔と顔を見合って(face to faceで)行っていることを評価します。
- ④発話がなかなか出てこない児童には、責め立てたり、すぐに教師が教えたりするのではなく、グループのメンバーで助け合うように促します。
- ⑤ドリル活動によって、「聞く」・「話す」ことの大切さに注目させることができます。

心を伝える Classroom English

Classroom English (教室英語)は「人と人をつなげる」コミュニケーション・ツールです。伝えるために大切なのは、正確な発音よりも、気持ちを込めることです。イントネーションや声、顔、身体の実現にも工夫が必要です。Classroom English を上手に使う、児童とのコミュニケーションを深めましょう。



福田 スティーブ利久
文教大学 教育学部 准教授

第5回 「振り返りと授業終わり」

今回のテーマは「フィードバック」です。教員・児童双方にとってフィードバックの大切さは言うまでもありません。さらに、主体的な学び手を育てるために、児童にフィードバックを与えることは、教師の一番の仕事と言っても過言ではありません。

今回は、振り返りと授業終了時の挨拶に使える、授業内容のフィードバックに役立つクラスルーム・イングリッシュを紹介します。

「振り返り」の定番フレーズ

授業終了前に、学習目標に対する振り返り活動を行っている学校は少ないと思います。振り返り際には、まず、児童をリラックスさせることが大切です。そして、学習目標を確認し、振り返りの項目を一つ一つじっくり考える時間を設けましょう。その際、以下のクラスルーム・イングリッシュを順に使ってみてはいかがでしょうか。

1. Put everything away. (全ての物を元の位置に戻してください。)
2. Time for review. (振り返りの時間です。)
3. What was today's goal? (今日の授業目標は何だったかな?)
4. Look at your reflection sheet. (振り返り用紙を見よう。)
5. Read [Listen to] Question 1. (1問目を読み[聞き]ましょう。)
6. Stop and think. (<書く前に) ゆっくり考えて。)
7. Answer Question 1. (1問目を答えましょう。)

授業終了時の定番フレーズ

振り返りが終わったらすぐに「Good bye!」ではなく、児童からフィードバックをもらいましょう。以下のクラ

スルーム・イングリッシュを順に覚えて、児童の顔や反応を見ながら使えば、児童との英語でのコミュニケーションの中からフィードバックを得ることができます。

1. We are finished today. (これで終わりです。)
2. I enjoyed today's class. (楽しい授業時間でした。)
3. Did you enjoy today's class? (楽しかったですか。)
4. Did you enjoy the activity [song/game/writing]?
(活動[歌・ゲーム・書く活動]は楽しかったですか。)
5. Let's enjoy the next class. (次回も楽しもう。)
6. See you next time. (また次回会いましょう。)

★ワンポイント・レッスン

「振り返り」の際に用いる「Stop and Think」というフレーズに疑問をもたれた方もいらっしゃるでしょう。実は、「Stop and Think」を振り返り活動の中で行うことで学びの質が大きく変わります。「人間は経験から学ぶのではなく、その経験を振り返ることによって学ぶ」という言葉を、教育哲学者ジョン・デューイが残しています。学びを成立させる振り返りには、「時間」と「方法」が重要な鍵を握ります。短時間でさらっと流す振り返り、気が散っている状態で行う振り返りは、時間の浪費です。振り返りには、ゆっくり考える時間が重要なのです。

多くの教室で見られる「答えを考えながら書く振り返り」では、児童は書く作業に気をとられ、振り返りで大切な「考える」ことが十分に行われていません。質の良い学びを成立させるために、振り返り活動の際、質問を読む[聞く]時間と答えを書く時間の間に「考える時間」をはさむことを忘れずに行いましょう。



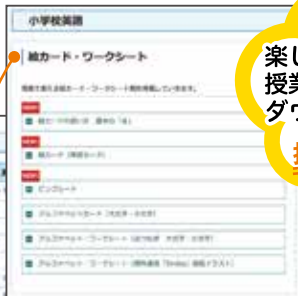
Steve T. Fukuda

日米の両方で教育を受ける。高校教員を経て、教員養成に携わるために大学の教員となる。モットーは「思いやり」と「恩送り」。



教育出版 小学校英語のウェブサイトをご活用下さい。

▼小学校英語トップページ



楽しいポスターや
授業で役立つ絵カードが
ダウンロードできます！

授業に！ 掲示に！



▲教師用絵カード

雰囲気づくりにも役立つポスター



アクセスは
こちらから！

小学校英語 TOP



Smiles

◎あとがき

新課程での学習内容を想定して作成された *Let's Try!*, *We Can!* を使ってのご指導が始まって、1年が経ちました。試行錯誤されながらも、先生方は多くの経験を積まれてきたことと思います。いよいよ2020年からは、5・6年生では地域ごとに選定される検定教科書が使用されることになります。ONE WORLD Smiles が、多くの子供たちと先生方の手に届き、楽しみながら英語の力をつけていくご協力をさせていただいたら幸いです。

教育出版英語編集部

小学英語通信 ONE WORLD 小学校英語応援マガジン Smiles [2019年春号] 2019年3月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集部

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

表紙イラスト：とろっち

印刷：大日本印刷株式会社

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

電話 03-3238-6864(内容について) 03-3238-6901(配達について)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- | | | |
|-------|-----------|---|
| 北海道支社 | 〒060-0003 | 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509 |
| 函館営業所 | 〒040-0011 | 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198 |
| 東北支社 | 〒980-0014 | 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395 |
| 中部支社 | 〒460-0011 | 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825 |
| 関西支社 | 〒541-0056 | 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401 |
| 中国支社 | 〒730-0051 | 広島市中区大手町3-7-2
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040 |
| 四国支社 | 〒790-0004 | 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134 |
| 九州支社 | 〒812-0007 | 福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140 |
| 沖縄営業所 | 〒901-0155 | 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411 |

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配付を許可されているものです。